

## 第2回噴火湾ホタテガイ情報(2014年) 発行日:平成26年4月25日

発行:函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、協力:胆振・渡島北部・渡島地区水産技術普及指導所

10m 深の水温は、湾内は 3.5～5.0℃で、湾外は 2.5～3.5℃で、昨年に比べ 1～2℃低い状態です。現在、湾内外にはホタテガイラーバは、ほとんど出現していません。今年は冬季に低水温だったため、産卵が遅れていると考えられます。

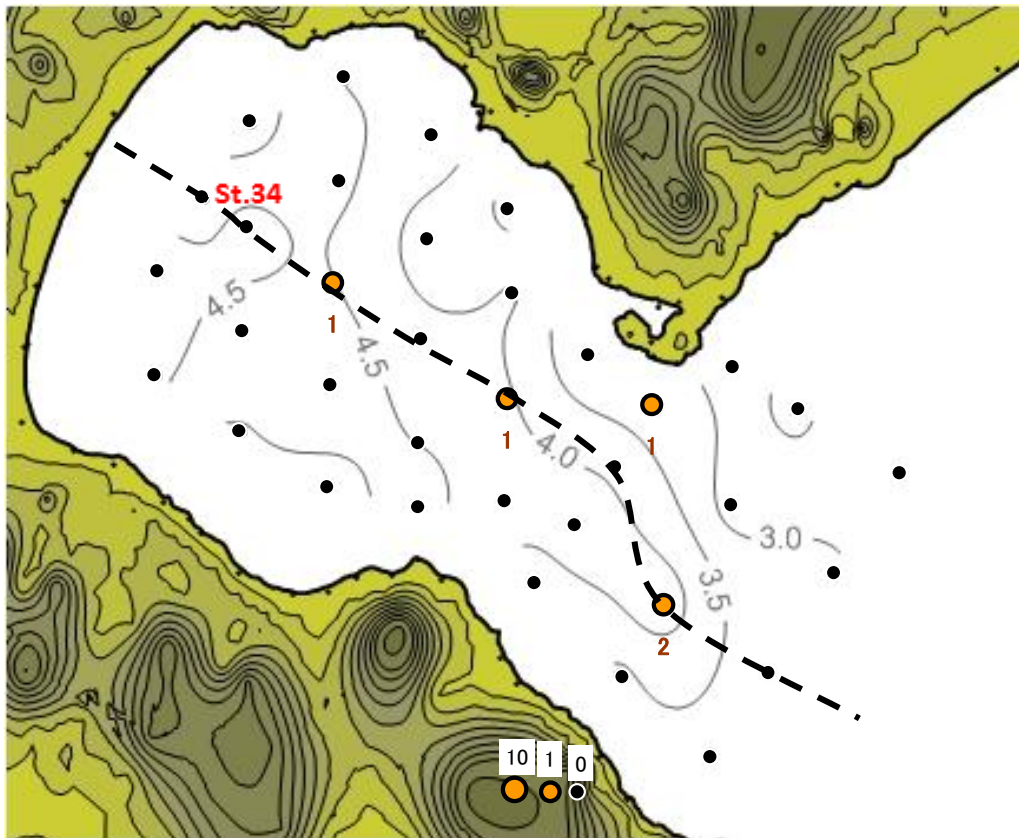


図1. ホタテガイラーバの分布状況(2014年4月21～22日)

丸の大きさと下部の添付数字はラーバ密度(個/ト)、灰色曲線と数字は10m深における等水温線と水温(℃) 点線は図2の断面図位置

【概要】4月21～22日に、函館水産試験場の試験調査船金星丸により、噴火湾のホタテガイラーバ及び環境調査を行いました。現在、湾内外にはホタテガイラーバは、ほとんど出現しておらず、昨年同時期(2013年4月湾内平均:63個/ト)に比べて少ない状況です。各地区の水産技術普及指導所の「ホタテガイ採苗情報」でも、ほとんどの地区で生殖巣指数の低下が報告されておらず、本格的な産卵は始まっていないと考えられます。

今年は、冬季から春季にかけて親潮の勢力が強く、水温は低い状態で推移したため、ホタテガイの産卵が遅れていると考えられます。近年では2010年が今年と同様に水温が低く、4月下旬にほとんどラーバが見られない状況でした。しかし2010年は5月中旬以降に、ラーバが出現し良好な採苗が行なわれました。今年も今後、例年通り水温が上昇すれば、産卵が進みラーバが増加する事が期待されます

今後の産卵状況や水温変化については各地区水産技術普及指導所の「ホタテガイ採苗情報」や「環境調査結果」、またはRASブイの水温情報を参照してください。次回の全湾のラーバ及び環境調査は、連休明けの5月7～9日に、函館水試金星丸で実施する予定です。

(連絡先:函館水産試験場 佐藤・吉田・金森・渡野邊 TEL:0138-57-6074)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。 <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>

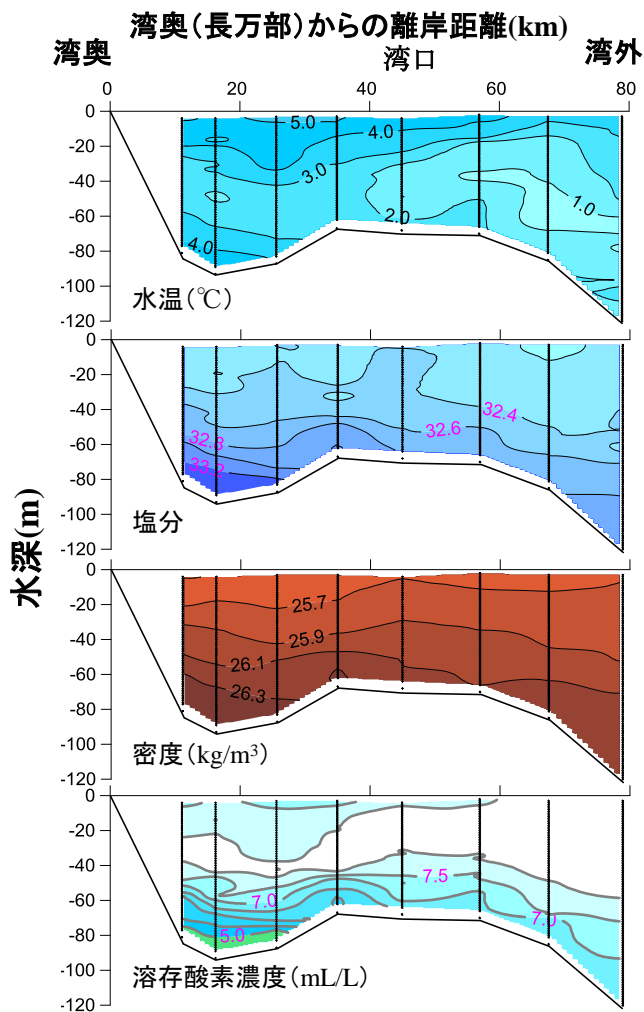


図2. 噴火湾縦断面の環境変量分布  
位置は図1を参照

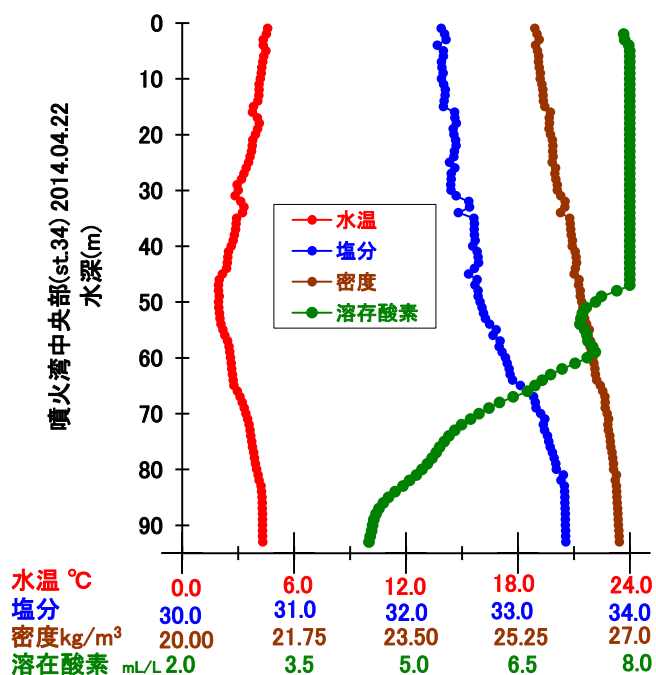


図3. 最深地点(st34)における  
水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直分布  
位置は図1を参照

【環境情報】

湾内 25m 以浅の水温は 3.5~5.0°C ですが(図2)、その下の 25~60m 深は 1.5~3°C と低い状態です。湾外の 20~80m 深にはさらに冷たい水温 1~2°C の水が分布しています(図2)。

最深地点の水温は、表層から 20m 以浅でやや高く 4.0~5.0°C ですが、50m 深では水温 1~2°C とかなり低くなっています(図3)。塩分は表層で 32.2 と低く、水深 60m の 33.4 まで徐々に上昇しています。この水深 60m 前後で溶存酸素が大きく変化する事から、60m 以浅の水は湾外から流入した親潮水で、60m 以深の水は秋から冬に湾内に滞留していた冬季噴火湾水と考えられます。溶存酸素は最深部でも 4.5mL/L(飽和度 61%) で貧酸素状態には至っていません(貧酸素の目安は 2~3mL/L)。